

2023年3月24日  
SCSK株式会社

## ほくほくフィナンシャルグループが パーセフォニ社の炭素会計プラットフォームの活用を開始 ～GHG排出量およびファイナンスド・エミッション算定高度化への取り組みを支援～

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者:當麻 隆昭、以下 SCSK)は、株式会社ほくほくフィナンシャルグループ(本社:富山県富山市、取締役社長:中澤 宏、以下 ほくほく FG)に、パーセフォニ社(本社:米国アリゾナ州テンピ)の気候管理・炭素会計プラットフォーム(CMAP)を提供し、ほくほく FG 自社の温室効果ガス(GHG)排出量および投融資先企業の GHG 排出量(ファイナンスド・エミッション)算定高度化への取り組みを支援します。

SCSK は、2022 年 2 月にパーセフォニ社と代理店契約を締結し<sup>※1</sup>CMAP の販売を開始しておりました。このたびのほくほくFGにおける CMAP 活用は、国内の地方銀行として初めての事例になります。

※1:<https://www.scsk.jp/news/2022/press/product/20220228.html>

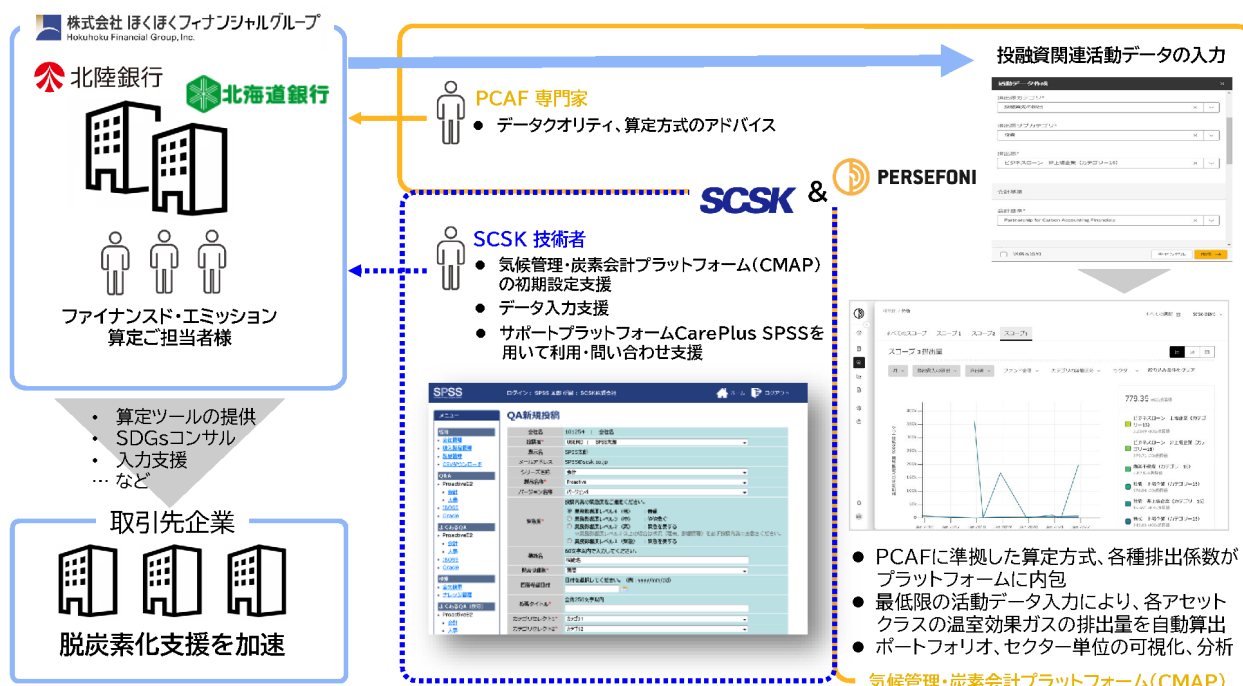


図: ほくほくFG、SCSK、パーセフォニによるGHG算定高度化取り組みイメージ

### 1. 取り組みの背景

現在、金融機関は自社のScope3を含めた排出状況を把握し、自身がカーボンニュートラルへ向けて推進すること、ならびに投融資先企業との対話(エンゲージメント)などにより、気候変動に関連する変化が投融資先企業に

もたらすリスクおよび機会をさまざまな視点から把握・分析し、投融資先企業が置かれている状況に関する共通認識を醸成していくことが求められています。

さらに、気候変動問題への社会的関心の高まりにあわせ、東京証券取引所のプライム市場上場企業は、「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に基づいた開示を必要とするなど、金融機関は株式市場や投資家、規制当局などからの要請を踏まえた対応が求められている状況です。ほくほくFGは、このような社会の要請に応えるために、パーセフォニ社の炭素会計プラットフォームの活用に至りました。

## **2. パーセフォニ社「気候管理・炭素会計プラットフォーム(CMAP)」活用のポイント**

ほくほくFGは、パーセフォニ社が提供する国際的な排出算定基準である、GHG プロトコル<sup>※2</sup>や PCAF<sup>※3</sup>に厳密に準拠する CMAP を利用することで、自社およびファイナンスド・エミッションの一元的な算定を行うことが可能となります。これにより、ほくほくFGは、多数の投融資先企業の GHG 算定を一括して行うことで、算定作業を大幅に効率化するとともに、投融資先企業のGHG排出量の分析・管理に取り組むことが可能となり、脱炭素化への取り組みを強化していくことを目指します。

※2:温室効果ガス(GHG:Greenhouse Gas)排出量を測定・管理するため、包括的な世界標準フレームワークを開発している国際イニシアチブ。

※3:金融向け炭素会計パートナーシップ(Partnership for Carbon Accounting Financials)。金融機関が投融資を通じて資金提供した先の温室効果ガスの排出を統合的に算定するための枠組。TCFD はファイナンスド・エミッションの算定手法として PCAF を推奨。

## **3. 今後の展開**

SCSK は CMAP の活用を通して、ほくほくFGにおける脱炭素化の取り組みを支援するとともに、SIerとしての知見を生かし、算定高度化の取り組みに向けたデータ管理やシステム運用の提案を実施します。

また、パーセフォニ社との強固なパートナーシップのもと、地方銀行をはじめ、あらゆる事業者様の脱炭素化に向け、貢献していきます。

## **パーセフォニからのエンドースメント**

SCSK とのパートナーシップを通じて、国内の地方銀行としては初めてほくほくFGとともに、ファイナンスド・エミッションの算定高度化への取り組みをスタートさせていただくことになり、大変光栄に思います。これにより、ほくほくFGとともにその多くの投融資先企業における脱炭素化の取り組みを後押しし、カーボンニュートラルな社会作りに貢献できると信じています。今後もパーセフォニは、世界クラスの炭素会計プラットフォームの提供と炭素会計に必要とされる高度な専門知識の共有を通じて、あらゆる事業者様の脱炭素化の支援に努めていく所存です。

パーセフォニ カントリーマネージャー 三浦 健人

## **ほくほくフィナンシャルグループについて**

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループは、北陸銀行・北海道銀行などを傘下に持つ持ち株会社であり、国内有数の地方銀行グループです。東京証券取引所(プライム市場)、札幌証券取引所に上場しています。傘下の北陸銀行は1877年創業、本店は富山市。国内外に194の店舗、従業員数は2,265名。北海道銀行は1951年設立、本店は札幌市。国内外に147店舗を有し、従業員数は2,118名。(2022年3月現在)

URL:[www.hokuhoku-fg.co.jp](http://www.hokuhoku-fg.co.jp)

## パーセフォニについて

パーセフォニは、気候変動管理・炭素会計プラットフォーム(CMAP)のリーディングカンパニーです。企業や金融機関は、国際的な炭素会計基準である PCAF や GHG プロトコルに対応する当社の SaaS 型ソリューションを利用することにより、国内外のステークホルダーや規制当局が求める気候変動に関する情報開示業務を、高い信頼性、透明性、利便性をもって行うことができます。パーセフォニのプラットフォームは、「炭素分野の ERP(経営資源を統合的に管理し、経営の効率化を図る手法)」であり、スコープ 1 から 3 までの(自社や国内外のサプライチェーン全体での)炭素管理の一元化を実現し、企業は従来の経理業務と同様の厳密さと信頼性をもって、炭素会計・管理業務を進めることができます。

URL:[www.persefoni.com](http://www.persefoni.com)

## SCSKグループのマテリアリティ

SCSKグループは、経営理念「夢ある未来を、共に創る」の実現に向けて、社会と共に持続的な成長を目指す「サステナビリティ経営」を推進しています。

社会が抱えるさまざまな課題を事業視点で評価し、社会とともに成長するために、特に重要と捉え、優先的に取り組む課題を7つのマテリアリティとして策定しています。

本取り組みは、「地球環境への貢献」に資するものです。

- －温室効果ガス排出量の算出・管理による、情報開示を高度化
- －情報開示の高度化推進により、脱炭素社会への変革をサポート
- ・SCSKグループ、経営理念の実践となる 7 つのマテリアリティを策定

[https://www.scsk.jp/news/2020/press/management/20200428\\_2.html](https://www.scsk.jp/news/2020/press/management/20200428_2.html)

## 本件に関するお問い合わせ先

【製品・サービスに関するお問い合わせ先】

SCSK株式会社

プラットフォーム事業グループ

ITエンジニアリング事業本部 ミドルウェア営業部

高梨

TEL:03-5859-3780

E-mail: [persefoni-sales@scsk.jp](mailto:persefoni-sales@scsk.jp)

Persefoni 製品サイト:

<https://www.scsk.jp/sp/persefoni/>

【報道関係お問い合わせ先】

SCSK株式会社

企画本部 広報部 山中

TEL:03-5166-1150

※ 掲載されている製品名、会社名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。